

# 式 辞

校長 立木 英邦



校庭の木々の蕾もほころび始め、春の暖かさが感じられる今日の佳き日に、長崎県立佐世保中央高等学校 通信制第四十六回 卒業証書授与式を挙げていきますことは大きな喜びであります。この佳き日にあたり、多数のご来賓・保護者の皆様には、ご多用の中に ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与した、長崎県立佐世保中央高等学校 通信制 第46回 卒業生93名の皆さん、卒業おめでとうございます。本日の喜びに至るには、ご家族をはじめ、職場の同僚や地域の方々等、周囲の方々に支えていただいた部分も大きかったことと思います。皆さんには、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないようにしていただきたいと思ひます。そしてまた、何より自分自身に誇りを持ってください。通信制の卒業証書は、自らに対する厳しさがなければ、手にすることはできません。通信制で学ぶ日々の中で、皆さんは、おそらく自分で感じる以上に成長していることは間違いありません。

皆さんの多くが3年前に本校に入学しましたが、その頃に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、行動制限も徐々に解除されていきました。私は昨年度からの2年間、皆さんと共に本校で過ごしましたが、この2年間、何の制限もなく学校の教育活動を行うことができました。卒業生の皆さんの様々な活躍には、多くの感激をいただくと同時に、皆さんの今後の可能性を感じました。部活動生が県の定通大会に出場し、全国大会を目指し懸命に闘う姿、全国大会に出場した選手が全国の強豪と見応えのある闘いを繰り広げる姿、生活体験発表大会や地域の行事で、これまでの自分の殻を破り、堂々と自分を表現する姿、中央祭で他課程の生徒と協力して準備をし本番当日を盛り上げる姿、そして何より日々の学校における笑顔に満ちた若々しい姿。このような皆さんの姿を見ることができ、この上ない喜びを感じてきました。ありがとうございます。

また、皆さんは、通信制の学びの中で基礎学力を身につけ、様々な教育活動を通して人間性の向上を図り、就職試験や入学試験に臨み自身の進路実現を果たそうと努力しました。このような本校での経験の蓄積を自身の励みにして、今後に生かしていただきたいと思ひます。

今、世の中は科学技術やSNS・AIの進展により便利になり、物事が変化するスピードが驚くほど速くなり、全世界と身近につながるができるようになりました。同時に世界の国々がより影響を及ぼし合う時代になり、アメリカのトランプ政権が行う政策に全世界が大きな影響を受けています。日本も例外でなくアメリカや世界各国の動きに大きな影響を受けており、かつて世界で第二位だった日本の経済力は年々衰退し、数年続く円安の影響や気候変動が相まって物価高が止まらず、私たちの日々の生活に大き

な影響が及んでいます。日本の地方では、人口減少が進み地域産業の衰退も現れ始めています。このような中で、長崎県や佐世保市等では積極的な企業誘致や地域の産業、企業の魅力に目を向けた情報発信等も行われています。卒業生の皆さんは、四月から、あるいは、近い将来、この社会の中で力強く生きていかなければなりません。

皆さんの卒業に当たり、私から3つのお願いをします。

まず、1つ目です。皆さんには、生まれ持った能力、あるいは、これまでに育んできた能力があります。その能力を大切に、生かすように心がけてください。これまでもそうであったと思ひますが、これから、自分にはこれができるというものを1つでも2つでもいいですから身につけて、それを生かしていくように心掛けてください。そして、同じ経験を繰り返すことによってその能力は優れたものになっていきます。

2つ目です。人は、一人では生きていくことができません。感謝の気持ちを忘れず、皆さんの周囲にいる人に対して、常に、謙虚な姿勢で、思いやりの心を持って接してください。皆さんには、どうしても合わない人もいるかも知れませんが、そういう人に対して直接関わることが難しい場合は、信頼できる人を頼るよう心掛けてください。

3つ目です。世の中で生きていくためには、学び続けなければなりません。4月からは皆さん全員が選挙権を持ちます。先日、国政選挙、県知事選挙等が行われましたが、世の中の動きやどのような政治が行われているのかということを知る必要があります。当然、自分が就いた職業の技能を高める必要があります。本を読んだり、様々な人と関わることによって、人の生き方を学ぶこともできます。皆さんにはこれまでに認知能力、非認知能力の話をしてきました。学校での学びは、主に試験の結果に通じる認知能力に関わるものの割合が高くなっていますが、世の中に出てからの学びは、試験のためというよりは、自分自身が生きていくためのものであり、そういう意味では非認知能力に関わるものの割合が高くなります。「スポーツ選手が、記録をとり、自分自身のその時の状況やその後の取組・目標等を言葉で表し、努力を重ね、能力を発揮し、成功を収めている。」という話もしてきました。人やSNS、新聞、本(書籍)等から情報収集し、また、様々なことを学び、知り得たこと、学んだこと等を自分自身の言葉にして表し、生きていくための行動に生かしてください。人生を通して、学び続けなければならないということ肝に銘じて、生きていっていただきたいと思ひます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。名残は尽きませんが、本校で努力を重ね成長してきた卒業生の皆さん一人一人が、これから歩む希望の道で、自分らしく輝き、幸せな人生を送ってくれることを心から願ひ式辞とします。

# 送 辞 (抜粋)

先輩方と過ごした日々を振り返る時、私が特に尊敬している点が、3つあります。

1つ目は、レポートや試験と、部活動や仕事を両立されていた点です。

私自身も、昨年度からアルバイトを始めてみましたが、レポートや試験の出来は格段に落ちてしまい、提出期限をすぎることもしばしばありました。しかし、先輩方は、弱音のひとつも吐くことなく、レポートや試験をこなし、アルバイトや仕事も、見事にこなされていました。おそらくは見ええないところで大きな努力を続けられてきたことと思ひますが、自分は到底真似出来ないな、と痛感いたしました。

2つ目は、協調性です。私が特に印象深く残っているのが特活のコミュカアップ講座です。参加者同士の協働的な活動において、もっとも団結していたのは、先輩方でした。沢山の先輩方が講座へと足を運び、グループ活動もスムーズに進められていたのが、印象的でした。グループの中で一番笑いが起こるのも先輩方でしたし、グループ対決を行った時にも、やはり先輩方が頭ひとつ抜けていて、敵わないと感じました。

3つ目は、ここに集う先輩方の高い人間性。どんな時も見せてくださる笑顔とそこにある人としての温かみです。悔しい事も、苦しかった事も、逃げ出したい事もあったと思ひます。しかし、私達の前では一切見せず、笑顔で接して下さる先輩方。

在校生代表 畑農 恭朗



私は生徒会長として、皆様の笑顔と「楽しかった」「面白かった」「またしてみたい」と言ったお言葉に、元気をたくさんいただきました。上手いかわない時も「大丈夫」と支えて下さる先輩方や、自ら手伝いを申し出て下さる先輩方に、救われた生徒会メンバーも多々あります。私自身も、その1人です。

このように敬愛する先輩方へ、送りたい言葉があります。それは「凡事徹底」という言葉です。意味は、一つ一つの当たり前を徹底すること、小さい事でもしっかりすること、です。通信制の最大の魅力というのは、生徒が自分で行動を起こすこと。自主性の高さにあると思ひます。通信制で自分でやる力を付けた先輩方なら、一つ一つを徹底し、社会人として生きていく力も充分にあられると思ひます。何事でも、小さい事を放置すれば、やがて大事になり重くのしかかります。そうならない為にも、普段の小さい事から徹底し、周りに振り回されても、地に足をつけて自分を守ることが大事だと思ひます。そして、先輩方はその力を持っておられます。この通信制で、卒業を迎えることが難しいのは、先輩方もよくご存知だと思ひます。しかし、今日、先輩方はその卒業を迎えられました。これから先も、この通信制での数々の経験と、それを通して培った人間性、そして「凡事徹底」の大切さを胸に、ご活躍される事を心からお祈りしております。

# 答 辞

冬の寒さも和らぎ木々の蕾も膨らみ始める今日、私たちはここ佐世保中央高校を卒業します。慣れ親しんだこの学校にも、別れを告げる時がやってきました。

本日、私たち卒業生のために、このように荘厳な卒業式を挙げていただき誠にありがとうございます。また、校長先生をはじめ、ご来賓の皆様や在校生の皆様からの温かい励ましの言葉を頂戴し、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

高校生活を終えようとしている今、この日を迎えることができた喜びと達成感に満ちられると同時に、共に過ごしてきた仲間や先生方との別れに寂しさを感じています。

3年前、通信制高校に編入するという決断をし、これからの学校生活と将来への不安を抱えながら佐世保中央高校の扉を開いたことを今でも思い出します。これまでの足跡を振り返ると、決して真っ直ぐではなく、立ち止まったり、走ったり、時には引き返したりしながら歩んできました。その一つ一つの跡が、今の私自身へとつながっています。初めて始業式に出席した日、私は武道場を体育館だと勘違いし、誰もいない武道場の入り口に立ち尽くしました。そのとき感じた、胸が締めつけられるような不安も、今では懐かしい思い出です。あの日の不安な気持ちから始まり、私たちはこの三年間で教えないほどの経験をしてきました。楽しいことばかりではなく、悩みや壁にぶつかることもありました。その一つ一つが私達を成長させてくれました。その経験の一つが部活動の日々です。私はバドミントン部に所属し、最初はただ運動をするというだけの目的で入部しました。しかし、そこで出会った仲間が私の学校生活を大きく変えてくれました。通信制だからと友達を作る気がなかった私に、明るく話しかけてくれた3人の友人のことは、一生忘れません。

初めて出場した全国高等学校定時制・通信制体育大会の長崎県予選で悔しい思いをし、来年こそは勝ちたいと全員が決意したあの瞬間、彼らとの絆がより一層強くなった気がしました。それから、私を含め部員のほぼ全員が初心者にも関わらず、翌年の大会で団体戦準優勝を果たすことができたことは、それぞれが技術だけでなく、心も鍛えられた証だと思ひます。決勝戦では、最後まで諦めずに互いに声を掛け合い、一球一球を必死につなぎました。

卒業生代表 田崎 哲平



結果は準優勝でしたが、会場全体が一体となるほどの試合ができたことは、勝敗以上に心に残っています。あの瞬間、仲間とともに全力で戦えたことを、私は誇りに思っています。この経験を通して、私は一人ではないのだと気づいたのと同時に、日頃から感謝の気持ちを忘れずに行動できる自分に成長することができたと感じています。そして、このように成長できる環境を整えてくれた先生方、先輩方、友人たち、そして両親には感謝してもしきれません。

まずは、私達を温かく、時には厳しく導いてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。学習面だけでなく、人として大切なことを教えていただきました。また、1人で過ごすことが当たり前になっていた私に寄り添い、いつも笑顔で話しかけてくれた仲間たちには、何度も助けられました。そして何より両親には、私が悩み、苦しみ、落ち込んだ時、いつも変わらず愛情で支えてもらいました。道を外れそうになっても、真っ直ぐな道へと導いてくれたことに、深く感謝しています。

これから先、私たちはそれぞれ異なる道へと進みます。その先は決して平坦ではありません。私はこれまで、警察犬訓練士になるという道を目指し努力を重ねてきました。しかし、その過程で思うようにいかない経験や葛藤もあり、自分自身と向き合う時間を持つことになりました。それでも、共に歩んできた犬たちとの日々は、私にとってかけがえのないものです。言葉は交わさなくても、信頼関係を築く中で、多くのことを学びました。これからどの道を選ぶことになっても、この経験を胸に、自分に誠実であり続けながら歩いていきたいと思います。卒業後、誰しもが何度も壁にぶつかり、諦めそうになることもあると思ひます。そんな時私たちは、ここ佐世保中央高校で学んだことを胸に、それぞれの夢に向かって歩み続けていきます。

最後になりましたが、これまで私達を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。そして今日、ここ佐世保中央高校で刻んだ足跡を胸に、私たちはそれぞれの道へと歩み出します。母校のますますの発展と、皆さまのご多幸を、卒業生一同、心から祈念して答辞といたします。